

まちかどトーク（横田地区）議事要旨

日時：令和8年3月16日（月）19:00～20:25

場所：横田地域交流センター

参加者：41人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「地区の現状と今後のあり方のひとつの提案」について地域課から説明の後、質疑応答

参加者

家主が亡くなり親類縁者もいない空き家については、どのように管理されているのか。外国人住民が増加しており、災害時など地域としての対応が必要となるが、他の地域ではどのように対応しているのか。

市長

空き家は個人の所有物であるため、行政の介入が難しい。固定資産税の納税通知書に空き家の売却等を勧めるチラシを同封する取組を行っている。

地域課

他の地区では地域で外国人住民と交流する料理教室やダンスのイベントを開催し、顔のわかる関係性づくりを始めている。

参加者

町内にある老朽化した空き家の朽ちた材木などは、自治会で処理し、費用を負担している。道路に飛散したものは、市役所に対応してもらえることもあるが、個人の敷地内に落ちたものは対応してもらえない。

市長

今後、こうしたケースが増加する可能性があるかと認識している。

参加者

竹平記念体育館のスポーツジムは利用者が少ないと感じている。高齢者の健康づくりのために高齢者割引などを取り入れ、利用しやすいようにしてほしい。

旧立山アルミ本社工場跡地は、スーパーの出店準備のため開発行為が行われている。市から工場跡地の雨水や融雪水は早川地内の排水路に流れるという説明があった。開発に伴う雨水の排水路への集中を懸念しており、さらなる浸水対策を検討すべきではないか。

市長

浸水対策として、今年度ポンプを1台増設するが抜本的解決には至らないため、さらに対策を検討する必要がある。

高齢者の健康維持が医療費や介護給付費の抑制につながることから、竹平記念体育館の利用料の割引については、実現可能か検討したい。そもそも施設の存在を知らない方がいるかもしれず、施設のPR不足を感じている。

参加者

近隣での学校体育館やスポーツセンターの廃止が進んでいるため、地域のスポーツ施設やコミュニケーションの場が急激に減少している。竹平記念体育館のサブアリーナ建設計画の再検討をお願いしたい。

横田小学校がなくなったことで地域の避難所定員が約 1,000 名減少している。避難所を設ける際は、二次被害を防ぐため避難所環境に最低基準を設けて欲しい。

参加者

公共施設の建設により財政状況が悪化した自治体もあるため、サブアリーナの建設は反対の考えである。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

身寄りのない高齢者への支援について、行政、民生委員、自治会が連携して対応できる体制を構築するとともに、ハード・ソフト両面で住民が日常的にコミュニケーションが取れる場の整備を進めていただきたい。

高齢化で車を運転できない市民が増えるなか、高岡市の公共交通は不便である。新高岡駅へのバス直通便もなくなった。住民の立場に立った新しい公共交通網の設計を要望したい。

市長

高齢者や DV 被害者など居住困難者に空き家を提供し、行政が仲介する仕組みの導入を検討している。これにより高齢者の住まいと空き家の問題が少しでも解決に向かうことを期待している。

交通事業者と意見交換しながら、複数の交通事業者が協力し合う仕組みづくりについて検討を進めている。令和 8 年度は、AI オンデマンドバスの試験運行を開始し、路線バスの最適化が図られるかを検証したいと思っている。

参加者

小中学生を対象とした、地場産業の体験教育は行われているか。

市長

「ものづくりデザイン科」という授業を行い、生徒が地場産業の関係企業へ赴き体験学習を行っている。この取組により関係企業へ就職した実績もある。

参加者

高岡市にはドラえもん関連施設があるが、観光客へのアピールが不足している。高岡駅の改札前のドラえもんポスト横に関連施設の地図を設置したり、ウイング・ウイング高岡前の銅像を夜間にライトアップしたりするなど、資産をより有効に活用すべきである。

市長

何かできることがあるかもしれない。関係部署に伝えたい。